

史学専攻

人材養成および教育研究上の目的

史学専攻においては、日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各専修においてカリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では、学部での習熟度を踏まえ、演習と講義を通して研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、もって社会諸方面の要請に応えることのできる専門職業人を育成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程で培った専門的能力をより錬磨させ、体系的な研究業績の達成はもとより、社会に貢献する高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

〈博士課程前期〉

1. 望まれる学生像

史学専攻では、広く歴史に関心をもち、歴史学を学ぶための基礎学力を具えるとともに、歴史研究を通じてものごとの本質を見抜き、自ら問題解決のできる創造性かつ積極性にあふれる精神をもつ学生を求める。

2. 入学者選抜の基本方針

志望する専修に関する専門知識を具えるとともに、歴史学全般にわたって広い知識をもっていることが選抜の条件となる。そのため、論文の提出を求めるとともに、各専修に必要な専門知識を問い、さらに口頭試問を課する。

〈博士課程後期〉

1. 望まれる学生像

史学専攻では、専門分野に関する高度な知識を具えるとともに、博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、蓄積してきた研究成果をいっそうひろげ深めようという向上心・探究心をもつ学生を求める。

2. 進学者選抜の基本方針

専門分野において自らの研究課題を発見し、その問題解決のための方法とそれを論文の形式で表現する方法とを身につけていることが選抜の条件となる。そのため、論文の提出を求めるとともに、口頭試問を課する。





❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

史学専攻の博士課程前期では、各専修に特講・史料講読・演習の三種類の授業科目を配置し、講義・実習・研究報告の三つの教育・研究のための方法を有機的に組み合わせることによって、教育・研究の成果を効果的にあげるカリキュラムを採用する。これによって、受講者が、自らの研究課題を積極的に発見し、研究の方法を具体的に体得し、その研究の成果を説得的に公表することを可能とする。博士課程後期では、特論と特別研究との二段構えを採用し、講義と演習との効果的組み合わせによって、教育・研究成果の向上をはかっている。研究成果は学位論文に結実することとする。また必要に応じて、外部から招聘する非常勤講師の講義も用意する。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

史学専攻の博士課程前期では、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に修士（文学）の学位を授与する。

- ・ 専門分野において自らの研究課題を発見し、その問題解決のための方法とそれを論文の形式で表現する方法とを身につけていること。
- ・ 史資料に対して深い理解を有し、高度な専門的知識にもとづいて文化遺産の調査・保存・活用に従事できること。

博士課程後期では、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に博士（文学）の学位を授与する。

- ・ 専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、研究者として自立した活動ができること。
- ・ 史資料の調査・保存・活用に指導的な役割を果たすことができること。
- ・ 専門分野において後進を指導し育成する資質や指導力を身につけていること。

